

知覚動考

寒河江市立南部小学校
校長室通信
校長 白田 敏幸

～「誰一人取り残さない 子供の可能性を引き出す学校づくり」～

「失敗から学ぶ子」と「失敗から学べない子」、決定的に違う“大人の行動”とは？

YAHOO ニュースを要約

現代社会では、失敗に対する恐怖心が根強く、特に日本では「完璧でなければならない」「失敗は恥」という価値観が広く浸透しています。大人になると責任ある仕事を任されるようになり、失敗が許されにくくなるため、挑戦する機会が減ってしまいます。しかし、**子供たちの成長期には、むしろ積極的に失敗を経験させることが重要**です。失敗を通じて「次はどうすればうまくいくか」を考える力が養われ、問題解決能力や粘り強さにつながります。

アメリカ・アリゾナ大学の研究では、「**85%の成功と15%の失敗**」が最も学習効果を高めるといわれる「**最適学習 85%ルール**」が示されています。これは、学習において適度な難しさがあることで、より深い理解と成長が促されることを意味します。勉強やスポーツ、料理、工作など、日常の中には小さな失敗の機会が豊富にあり、子供はそれらを通じて自然に学んでいきます。失敗して泣いたり怒ったりしても、子供は気持ちの切り替えが早く、前向きに取り組む力をもっています。

大人や教育者は、子供が失敗したときに感情的に叱るのではなく、「どうしてこうなったのかな？」と問いかけることで、**子供自身が原因を考える機会を与える**ことが大切です。危険な失敗以外は、**成長のチャンス**と捉え、共に考え、改善策を見つけることで、分析力や問題解決力が育まれます。失敗をただの挫折として終わらせるのではなく、次に活かすフィードバックを得ることが、学びの質を高める鍵となります。

また、日本の教育は長らく平均的な成績を重視する傾向があり、突出した才能よりも「みんなと同じ」が求められてきました。その結果、得意なことがあっても苦手な分野で評価が下がると「落ちこぼれ」と見なされることもあります。しかし、**人間にはそれぞれ得意・不得意があり、すべてを平均的にこなす必要はありません**。むしろ、その子の特性に合った選択を尊重することが、自己肯定感や主体性を育てるうえで重要です。

これからの時代は、AIの進化によって人間が担うべき仕事の形も変わっていきます。すべてを自分でこなすのではなく、「できないことは得意な人と協働する」という考え方が、社会を生き抜く力となります。子どもにも「できないことは人に頼ってもいい」と教えることで、安心して好きなことに挑戦できるようになります。**失敗を恐れず、挑戦を続ける姿勢こそが、変化の激しい時代に必要な力**です。

子供は遊びの天才であり、失敗の天才でもあります。そもそも失敗を失敗だと思わない柔軟さが、子供の大きな強みです。だからこそ、失敗に慣れさせることが大切です。**失敗を通じて得られる学びは、単なる知識以上に、人生を支える力**となります。私たち大人がその価値を理解し、子供たちの挑戦を支える姿勢をもつことが、未来への投資となるのです

